

---

第10回K. C A Tフォーラム

これからの金沢の都市と交通を考える  
～K. C A T10年の歩み～

報 告 書

---

平成21年5月

金沢の都市と交通を考える会

(K. C A T)

## 【開催概要】

□日時：2009年3月20日（金・祝）13：30～16：00

□会場：アートシアターいしかわ ホール（ラブロ片町7階）

□参加者：103名

□主催：K. CATフォーラム実行委員会（代表：金沢大学 高山純一教授）

□開催主旨：

金沢の都市と交通のあり方について議論してきたK. CATの活動も、活動開始から10年が経過した。

その間、バスや自転車、新幹線、環状道路などの交通や、中心市街地の活性化、地域連携、歴史文化資産の活用など、様々な問題をテーマとしてきた。これまでの提案は、施策として実行に移されているものもあれば、夢や将来に実現の可能性を残しているものもある。その歩みは、小さいながらも着実に金沢のまちづくりに一石を投じてきたと自負している。

今回、10回目を迎えるにあたり、これまでの提案を振り返るとともに、これからの金沢の都市と交通について、より議論を深めるフォーラムを開催する。

□全体の流れ：

時 間	項 目
13:00～13:30	受付
13:30～13:40（10分）	開会・挨拶・主旨説明
13:40～14:00（20分）	過去の提案の総括
	～ステージ配置換え～
14:00～15:50（110分）	パネルディスカッション
14:00～15:00（60分）	パネルディスカッション前半
15:00～15:10（10分）	休憩（会場からの質問用紙回収）
	～ステージ スクリーン設置～
15:10～15:20（10分）	会場アンケート
15:20～15:40（20分）	パネルディスカッション後半
	（会場質疑）
15:40～15:50（10分）	コメンテーター講評
15:50～16:00（10分）	総括・まとめ
16:00	閉会

□出席者：

- ・コーディネーター：高山純一氏（金沢大学環境デザイン学系 教授、K. CAT代表）
- ・コメンテーター：蓮見有敏氏（国土交通省金沢河川国道事務所長）
- ・パネリスト：沖伊知郎氏（株式会社日本政策投資銀行北陸支店次長、元メンバー）  
八重澤美知子氏（金沢大学留学生センター 教授、ゲスト）  
木谷弘司氏（金沢市都市政策局交通政策課担当課長、メンバー）  
青海万里子氏（金沢エコライフくらぶ代表、メンバー）
- ・発 表 者：大家弘聡氏、吉田真由美（メンバー）
- ・会場アンケート司会：北原良彦、福本佑美（メンバー）
- ・全 体 司 会：萩原扶未子（メンバー）

## ■パネルディスカッション

(自己紹介・感想等)

### 【沖】

- ・平成13年度、14年度のK. C A Tメンバー。
- ・富山県高岡市出身。高岡18年間、東京通算18年、福岡6年、金沢通算5年。
- ・平成13年の市長提言は、現在でも通じる話。コンパクトシティなど、ずいぶん早くからそういう要素が入っていたことに驚いた。
- ・賑わいというのは、人の歩いている数が重要。人が歩ける距離には限界があるので、いかに快適にそこに来て歩ける空間とつながりかという観点が大事。
- ・新幹線開通後の在来線は、K. C A Tのテーマよりも大きいと思うが、非常に大きなテーマ。
- ・東京の「谷根千（谷中、根津、千駄木）」という昔の下町や軽井沢のように、普通に人がいて暮らしているところを歩いて見て回るとおもしろい。金沢もそういう観点ではたくさん魅力がある。

### 【八重澤】

- ・1991年から金沢在住。
- ・地域への愛情が、金沢はとりわけ深いと感じている。
- ・中心街の活性化は、若い人がどのくらい歩いているかが大事。若い人への仕掛けが必要。
- ・現在の石川県の留学生は約1,500人。留学生をまちおこしとどう絡ませるか。
- ・留学生や外から見た人には、金沢の持つ文化力、有形、無形の文化材、資源、人は魅力的。

### 【蓮見】

- ・埼玉県さいたま市出身。金沢に来て2年。
- ・ほかのどの都市とも違う。歴史、文化、まちづくりとか交通に関する、市民の意識の高さ、奥行き、すそ野の広さがすばらしい。
- ・金沢はネームバリューがあり、いろんなことを誇りを持って紹介できるまち。

### 【木谷】

- ・金沢はかなりいろんな材料を持っていて、実は見るべきものが多い。外を見て初めて自分のことを知った。
- ・まちづくりは、どれだけ玉数が出せるポイント、提案ができるかというのがとても大事。
- ・K. C A Tは思索の精錬工場。
- ・このK. C A Tは、本来それに携わるような産学官の人間が立場を離れて集まっている。余りない形態。1つの住民参加の手法という点でも有効。

### 【青海】

- ・K. C A Tは楽しかったから10年も続けられた。まじめに議論しつつ、遊び心があるのがK. C A Tの良さ。こんなに自由に議論ができる研究会はそうそうない。

## (これまでの金沢の都市政策・交通政策についての評価等)

### 【八重澤】

- ・まちの賑わいに、若い人たちはただいるだけでも貢献する。若い人にまちに出てきてもらう仕掛けが必要。まちの真ん中には、さまざまな社会資源が集まっている（能楽堂、歴博、美術館）。
- ・東京はバスや電車に乗るときに整列するが、金沢は並ばないのでびっくりした。バス自体の本数よりも、その乗り方やPRが大事。今、シャトルバスがあり、非常に便利だと思うが、PRが不足している。
- ・自転車については、傘をささなくても素敵なウェアを繊維のまちとして開発できるとよい。自転車の乗り方のマナーは、教育の面の連携が必要。
- ・大都会に住む留学生を対象に「いしかわ金沢学」という企画を行ったところ、サムライ・ストリートと言って、町並み体験コースが一番人気だった。
- ・メインストリート（国道157号）に昔は扇子屋さんやいろんな古いお店、老舗が並んでいたが、今はカラオケ屋、携帯屋、コンビニなどが並んでいる。このメインの町並みをどうするのか。
- ・留学生が憧れた町並みがどんどん変わっていくのは残念。新しい文化をつくっていくときに、何を残して何をつぶすか、何を新しいものに変えるか、その判断基準をどこに置くかを考えるべき。

### 【高山】

- ・学生がまちなかへ出てこない一番大きな理由はバス代。金沢大学で、200円だったバス代を100円のバストリガーとしたら、3倍ぐらい乗っている。杜の里から片町まで100円で行けると、4、5倍の学生がまちなかにあふれるのではないか。たくさん乗れば、採算性も合うだろうが。

### 【沖】

- ・山側環状ができて、あれだけ劇的にまちなかの通過交通が減ったというのは初めての経験。道路としては非常に大きな役割があった。バスの定時性が向上した。
- ・一方で、山側環状から市内に入ってくる経路が、以前交通がそんなに多くなかったところに車が入ってきている。天神橋詰めから北國銀行に抜けていくところの交通量が増え、小学校の通学路で、事故も起こっている。通過規制など、安全対策も必要。
- ・歩くときは大通りはつまらないので、裏側を歩くが、通り抜ける車が多い。歩道もなく、30キロ超えると結構怖い。一方通行にすると不便だろうが、自分たちの居住環境を守るという意味でも、エリア内で、例えば通り抜けをしにくいような交通規制をかけるなどしてはどうか。
- ・通学時間帯で、車が入ってはいけないというところでも入ってくる。警察の取り締まりも年に1回ぐらいしかない。マナーの問題もあるが、ある程度規制が必要。
- ・水があるというのは非常に歩きやすい。駅から片町方面に歩くとき、大通りだと見通しがよくて遠く感じるが、用水沿いは見通しがききにくく、意外と距離も歩ける。水の音も心地いい。用水の復活はいいことだと思う。

### 【青海】

- ・金沢に初めて来たとき、繁華街（片町と武蔵）が離れていて、住みにくいと思った。賑わいがつながっていないと魅力が半減する。歩けるまちづくりをするなら、歩く必然性があるまちの中身をつくることも必要。

- ・10年前ぐらいに、「全国に行ってみたいまちベスト10」と「二度と行きたくないまちのベスト10」の上位に金沢が入っていた。今は大分よくなったが、当時は、小路1本に行ったら何もないような、奥行きのないまちだった。住む人がいてまちの魅力を磨き続けていかないと、リピーターにはならない。
- ・バスは、メインの通りはあるが、そこからわきに入っていくのが手薄。蜘蛛の巣みたいに結節点からまた横へ移動していく路線がもう少しできるといい。金沢全体の交通網を、採算性だけではなく、これから求められる公共性という視点でもう一度考えていく必要がある。
- ・電車やバスが環境にいいと言われるが、それは1台にほぼ満員くらい人が乗っていることが前提で、1台に14~18人ぐらい乗っているバスと4人乗っている自動車はほぼ同じぐらいのCO<sub>2</sub>の排出量。プリウスは1人乗りでも8~10人乗っているバスよりも環境に優しい。通勤時間帯以外の昼間の時間は、定時の乗合タクシーみたいなのを走らせるなど、もう少しきめ細かい公共交通対策を地域で話し合っていく必要があると思う。
- ・金沢くらいの規模のまちでも、市バスのところも民間バスのところもある。これから金沢が本当に公共交通をどうしていくのか、不採算路線の対策も含めて、もっと議論して方向性を決めていくべき。

#### 【木谷】

- ・これまでの金沢市のまちづくりは、金沢ならではのといったような、ほかとの差別化、個性というものを目指して進めてきたと言える。裏通りなど、欠点と呼ばれたものも肯定して進めてきた。
- ・用水の開渠化は、最初はものすごい反対の嵐だったが、事業を進めるにつれて、用水沿いに店が増え、歩く人も増え、みんなの評価が上がった。
- ・金沢でまちづくりを進めていくときには、文化とか目に見えないソフト的なものが本当の基盤だと思うが、目に見えるものができるということも大事。行政というのはどこかで一つの決断が必要であり、100人が100人賛成する施策なんてあり得ないが、その中で何割だったらいいか。
- ・市長が「歴史に責任を持つ都市」というように、まちづくりというのは、個人の権利と公共の福祉のバランスの中で、どうやってそれを現地で落としものを進めていくかということだと思う。
- ・歴史都市を考えたときに、金沢の人間というのはきっとほかの都市の人間から比べると、いろんな財産を先人のおかげで持たせてもらっている分だけ、強い公共の意識、天秤棒のバランスという点では、それをやっていく責任と義務があると思う。

## (質疑応答)

Q. どうやったら学生がまちなかに来るようになるのか？

### 【八重澤】

- ・どのようなまちの個性をもった中心街を私たちがつくっていかうとするか。
- ・観光客が見る施設はあるが、若い人が何かをするようなイベントに適した場所がない。まちなかの個性としてねらう年齢層が違うというふうにすみ分けして、別のところに若い人の活動拠点をつくり、まちなかはもうほっておくというのも一つの選択。
- ・もう一つの見方として、留学生が自分の車に乗るとか、乗った場合の保険をどうするかという政策がなかったため、留学生を中心にした活動をするときには、学内の先生からドライビングボランティアを募った。エコの点からも、そんなふうなことができるよ。
- ・まちづくりとしてまちの真ん中をどうするのかということの哲学が大事。

Q. 金沢のまちに住んでいる人とほかのまちに住んでいる人の考え方がどんな点で違うのか？

### 【蓮見】

- ・一朝一夕にはできない長い伝統の上に今の自分たちがあるという意識が、皆さんのベースにある。

Q. 用水の開渠化について、今後もそのような事業の計画はまだあるのか？

### 【木谷】

- ・具体的に御紹介するものは今の段階ではない。整備もそれなりに進んできている。
- ・無電柱化が最近の大きな一つのテーマになっている目に見えるハードの事業。

Q. 2000年以降の北陸の2大都市を比較すると、行政主導ながらも富山市がどんどん先行しているように感じられてならない。金沢は新幹線開通も控えながら、あと5年間で何を緊急にやらなければならないのか？

### 【沖】

- ・震災に遭わなかった金沢は、自動車交通という意味では非常に不便さがあるが、結果的に残ったということが、今後少なくとも人口がふえなくなっていく中では非常に大きな意味を持つてくる。もともとの人が歩いていたスケールでできているまちというのはものすごく重要。
- ・新幹線が来たときに在来線がどうなるかというのは非常に怖い。これを何とかうまく使えるようになると、住人、来訪者にとって利便性を上げることになるので、知恵を絞らないといけない。

## (金沢のまちづくりへの提言)

### 【沖】

- ・今後の人口減、高齢化の中で、行政の財政負担は限界がある。その場合に、維持更新の投資にも限界がある。郊外とまちなかの役割分担、哲学が必要。
- ・転勤族も町内会組織に入っているのは金沢の強み。能登地震のときに、濃密なコミュニティということが人命の救助に役に立った。ただ運営自体が旧来型だと若い人が入ってこないのが、民主主義の本当の根本のところ、町内会中でうまく機能すると非常にいいまちづくりになると思う。結局それが広がったものが市になる。
- ・今あるソフトのインフラをよく生かしていただきたい。

### 【八重澤】

- ・K. C A Tの存続がまずとても大事。
- ・金沢はほかから見て公共意識が高い。「金沢ナンバーにするからマナーをよくしなければいけない」と考えるのは、金沢市民がまちを愛している証拠。また、金沢市民は自分のまちに自信を持っている。
- ・今すぐには何とかならないかもしれないが、遠い将来を俯瞰するととても大事。近い目標と遠い目標を持ってこの会は存続していただきたい。

### 【木谷】

- ・都市計画は英訳すると“City Planning”、日本のまちづくりは、海外の論文では“Machizukuri”。まちづくりは、市民の生活をつくるというのが一つの大きな目的になっているという意味だと思う。
- ・特に金沢の場合は、構造だけでなく、ソフト的な部分が大きな要素を秘めている。例えば茶の湯や邦楽がどこかのうちでやっているということ自体が既にまちづくりの大きな一環になっていると思う。
- ・町会活動、近所のおつき合いといったもの自体が、まちづくりにつながると考えていただきたい。そういうことを基盤にする中で、もう一歩進んで、みんなのためにと地域のためにとという視点加わってくることで、奥の深いものにつながるのではないかと。
- ・もう市役所は、サービス水準は上がりこそすれ、全然人は増やしてもらえない。そうなってきたときに、行政としての決断、すみ分けもすごく大事だが、根本的なところとして、市民一人一人に力を貸してもらえないというのが正直なところである。それができない限り、金沢のまちづくりは本当に根差したものにはならない。そういった意味で、仕事以外のところになるべく顔を出して、何か一つのとっかかりみたいなものがないかと思っている。
- ・今日来ていただいた皆様からスタートして、そういったことが少しでも広がっていくことが、まちづくりの一番大きな底辺だと思う。

### 【青海】

- ・昨年、金沢市の環境基本計画の策定で市民と事業者にとってアンケートで、「大切にしたい金沢の環境要素は？」という質問に、用水や緑の豊かさなどの自然、歴史とか文化というのが圧倒的にトップだった。市民が守りたいと思っている自然を上手に生かしたまちづくりを進めていくべき。
- ・例えば、用水の流れが早い特色を生かして、小水力の発電を使ってライトアップする。街路樹を地産地消にして、地元の樹種の苗木を育てていく（イチョウは排水ドレーンにつきやすいため）。
- ・今まで郊外に拡散したまちを1回縮めて濃度を高める（コンパクト化する）というのは今どうしても



必要だと思う。最近、まちなかのマンションが熟年世代に売れている。21世紀美術館や玉川こども図書館もできて、子育て世代も暮らしやすいまちなかになってきた。まちなかで暮らす人を増やそうという政策をもっとわかりやすく市民の方に訴えていくことが大事。

## ■講 評

### 【蓮見】

- ・施策について議論する場合は、フィージビリティの高いものから夢みたいな話まで、いろんなレベルがある。その夢みたいな部分は、なくてはいけないし、非常に重要な話である。K. C A Tの議論は、その中間ぐらいをブリッジするような位置づけであり、そういう存在意義として非常に重要である。
- ・木谷さんは施策の精錬工場と言われたが、ゆりかご的な、インキュベーター的な意味もあってもいいと思う。そういう意味で大事にしていくべきものだと思う。
- ・ディベートは、議論をわかりやすくするという意味では非常に良く、施策を立体的に多面的に見るという意味ではすごくいい取り組みである。
- ・環状道路は8割ぐらい供用率になり、交差点の立体化や四車線化を進めている。ポスト環状道路的なものとして、中心部の活性化、新幹線、観光の面も含めたところに光を当ててやっていかなければいけないと思った。
- ・片町に学生があまりいないのは寂しい。スクランブルでの胴上げなど、学生はいろいろやってくれる。そういう賑わいみたいなものがほしい。かつては学都だったが、ノスタルジーの部分だけでなく、学生もまちづくりの一構成員としてまちに出てきて、賑わいの面でもぜひ活躍していただきたい。

## ■総括・まとめ

### 【高山】

- ・まちづくりや交通政策を考える上で、安全・安心、バリアフリー性、経済性、利便性などの視点は欠かせない。ただ、すべてを満足する解は難しく、どこかに重きをおけば、どこかを我慢しないといけない。
- ・これまでは人口の増加を前提としてまちづくりを進めてきたが、これからは人口は減少し、環境へも配慮しつつ、まちの活力だけは維持、拡大したいということになる。そうすると、どこの都市も交流人口拡大を目指すことになる。
- ・金沢の歴史性・文化を背景としながら、それをいかに磨きながらうまくPRして宣伝するか。それが自分たちの誇りにも、住んでいるということの満足にもつながる。
- ・そういうふうに政策そのものの方向性をきちっと定めることが一番大事で、政策がぶれないためにも、いろんな角度から議論をして方向性を定めることが大事。
- ・それを市民が受け入れて、協力してもらえよう、きちっと説明しないといけない。また、まちなかの車の抑制など、具体的にどういう形で進めるかといった議論が必要。
- ・交流機会が増加する中で、どういうふうに役割分担し、また一体として北陸地域のまちづくりを進めていくのかということ議論する場が必要。行政だけでなく、地域の住民や企業、団体が加わって真剣に考えることがこれから必要になってくる。
- ・まだまだ議論しないといけない内容は多いので、まだ当分K. C A Tも続けられると思う。



## ■会場アンケート

### 【練習1】会場までの交通手段

- ・[青] 徒歩、自転車…30%
- ・[黄] 公共交通（バス、電車、タクシー）…50%
- ・[赤] 自動車、バイク…20%

### 【練習2】10年前の自身の年齢

- ・[青] 10年前に10代、20代…25%
- ・[黄] 10年前に30代、40代…50%
- ・[赤] 10年前に50代、60代…25%

### 【第1問】10年前と比べて金沢の交通は便利になったと思うか？

- ・[青] 便利になった…85%
- ・[黄] 変わらない…10%
- ・[赤] 不便になった…5%

### 【第2問】10年前と比べて金沢市の中心部の賑わいは増加したと思うか？

- ・[青] 増加した…2人
- ・[黄] 変わらない…20%
- ・[赤] 減少した…80%

### 【第3問】10年前と比べて金沢市では暮らしやすくなったと思うか？

- ・[青] 暮らしやすくなった…25%
- ・[黄] 変わらない…50%
- ・[赤] 暮らしにくくなった…25%

### 【第4問】交通、賑わい、暮らしやすさの3つの視点から、10年前と比べて金沢のまちづくり全般はよくなったと思うか？

- ・[青] よくなった…50%
- ・[黄] 変わらない…50%
- ・[赤] 悪くなった…3人

### 【第5問】これからの金沢のまちづくりにはどのような点に重点を置くべきだと思うか？（複数回答可）

- ・[青] 交通…33%
- ・[黄] 賑わい…33%
- ・[赤] 暮らし…33%